

平成14年度丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書

丸亀市教育委員会  
平成15年3月

## はじめに

丸亀市内遺跡発掘調査は、国庫補助事業として文化庁及び香川県の協力を得て、市内に所在する埋蔵文化財の保存・保護を目的として、遺跡の所在や範囲・性格を確認し、丸亀市内の遺跡地図を完成させる事業です。

一方、本市は総合運動公園整備事業などの大規模な開発工事が着手・計画されておりますので、丸亀市教育委員会としても埋蔵文化財の保護を円滑に進めていく必要があり、遺跡を保護するための資料収集は責務といえます。

今後も市内にある埋蔵文化財の保護に努め、これらの遺跡を積極的に周知していく、郷土を愛する気持ちを育てる役割を果たす事業にしていきたい。

平成 15 年 3 月

丸亀市教育委員会  
教育長 小佐古 公士

## 例　　言

1. 本書は国庫補助・県費補助を得て、丸亀市教育委員会が実施した平成 14 年度丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書である。
2. 今回の調査は、丸亀市飯野町東二字山根の飯ノ山西麓と丸亀市郡家町 1325 番地 1 で遺跡確認調査を実施した。
3. 発掘調査は丸亀市教育委員会文化課副主任東信男が担当し、丸亀市飯野町東二字山根の飯ノ山西麓の調査は北山多佳子、枝嶋佳奈が調査補助し、丸亀市郡家町 1325 番地 1 の調査では北山多佳子が調査補助をした。本書の執筆、編集は東信男が担当した。
4. 掛図の一部に国土地理院地形図丸亀・善通寺 (1/25,000) を使用した。また実測図の縮尺はすべてスケール表示した。
5. 遺構の実測は東信男、北山多佳子、枝嶋佳奈が行い、トレースは東信男、北山多佳子、枝嶋佳奈が担当した。遺物の実測とトレースは東信男が担当した。
6. 出土遺物と図面・写真是丸亀市金倉現場事務所で保管している。
7. 発掘調査は、獅々堀隆司、宮武恵美子、宮武セキ子、高木裕子、横山紀代子、和氣シズ子、松原良子、戸倉弘子、淀川清眞、広瀬俊也各氏の協力を得た。
10. 本書の執筆にあたっては、米本仁、社会福祉法人厚仁会理事長 米本華代、事務長三木一生、横田泰人、徳安正道、西宮朝雄、重成幸雄、香川県教育委員会文化行政課 片桐孝浩、佐藤竜馬、財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 藏本智司、信里芳紀、乗松真也、財団法人元興寺文化財研究所 塚本敏夫、佐藤圭聖、各氏の助言・協力を得た。記して謝意を表する。

## 目　　次

第 1 章　調査に至る経緯	1
第 2 章　調査の概要	1
A　飯野町東二（飯ノ山西麓遺跡）	1
B　郡家町重元（郡家重元遺跡）	4

## 図版目次

A 飯野町東二（飯ノ山西麓遺跡）	
第1図 調査位置図	1
第2図 飯ノ山西麓2号墳平面図	2
第3図 調査平面図	3
B 郡家町重元（郡家重元遺跡）	
第1図 調査位置図	4
第2図 調査平面図	5
第3図 溝跡の土層序	6
第4図 遺物実測図	6

## 写真目次

A 飯野町東二（飯ノ山西麓遺跡）	
図版 1 飯ノ山2号墳検出状況	7
図版 2 飯ノ山2号墳検出状況	7
図版 3 飯ノ山2号墳石室内検出状況	7
図版 4 飯ノ山2号墳石室内遺物検出状況	8
図版 5 飯ノ山2号墳石室内遺物検出状況	8
図版 6 飯ノ山2号墳石室内遺物検出状況（馬具）	8
図版 7 飯ノ山2号墳石室内遺物検出状況（金環）	9
図版 8 飯ノ山2号墳暗渠排水検出状況	9
図版 9 壁穴住居跡3検出状況	9
図版 10 壁穴住居跡5検出状況	10
図版 11 壁穴住居跡11検出状況	10
図版 12 巨石周辺の段状遺構	10
B 郡家町重元（郡家重元遺跡）	
図版 13 調査前状況	11
図版 14 遺構検出作業	11
図版 15 遺構検出状況	11
図版 16 溝跡土層状況（溝跡の土層序1）	12
図版 17 補の羽口出土状況	12
図版 18 鉄滓出土状況	12
図版 19 住跡内出土遺物	13
図版 20 SD01 出土遺物	13
図版 21 SD02 出土遺物	13
図版 22 SD02 補・鉄滓	14
図版 23 SD03 出土遺物	14
図版 24 包含層出土遺物	14

## 第1章 調査に至る経緯

平成14年度丸亀市内遺跡発掘調査事業は、国庫補助事業として文化庁と香川県の補助を得て丸亀市が実施した。

埋蔵文化財発掘調査は丸亀市教育委員会が行い、本年度は飯ノ山西麓の丸亀市飯野町東二字山根の飯ノ山西麓遺跡と丸亀市郡家町1325番地1で、水路工事のときに柱跡や溝跡等の遺構が確認された場所に隣接する水田で遺跡確認調査を行った。

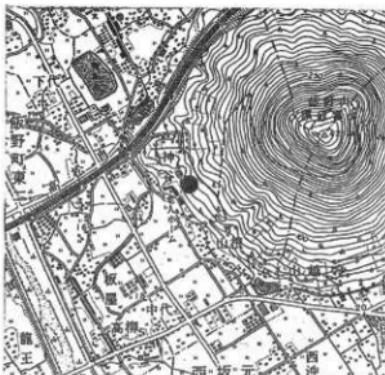
## 第2章 調査の概要

### A 飯野町東二（飯ノ山西麓遺跡）の調査

1. 調査目的 遺跡確認調査
2. 調査場所 丸亀市飯野町東二字山根 25番地5, 12
3. 調査主体 丸亀市教育委員会文化課
4. 調査担当 文化課 東信男・北山多佳子・枝嶋佳奈
5. 調査期間 試掘 平成14年6月3日～14日  
本調査 平成14年6月17日～  
平成15年3月27日
6. 調査面積 約3,000m<sup>2</sup>
7. 調査方法 重機による表土掘削と人力による遺構確認調査。
8. 調査の概要

昨年度の調査で発見された遺跡の隣接地で遺構確認調査を実施した。調査の結果、竪穴住居跡や古墳と考えられる包含層を確認し、本調査を実施した。調査成果は、古墳を1基、竪穴住居跡を9棟、その他に段状遺構や溝状遺構を検出した。

古墳は昨年度調査と同様に竪穴住居跡地に造られていた。天井石や側壁、奥壁の石は全て抜き取られていたが、石室内の床面の残りは良好であった。石室は磁北を向き、被葬者を埋葬する玄室の床面は半分より奥側が礫敷きで、その前は粘土床となっていた。また、羨道部の床面下部からは石敷きの暗渠排水路が見つかり、玄室を取り囲むように排水施設が巡っていた。玄室と羨道部の境には閉塞石の基底部とその両側から玄門立石の跡が確認され、墓こうの掘り方から両袖式の横穴石室であることが確認された。玄室長約3.4m、玄室幅約1.9m、羨道長約5.4m、玄室の墓こうの幅は約4m、背後には周濠が巡り、1.9mの円墳となる。出土遺物は、被葬者に対する副葬品として、須恵器や装身具、馬具等が出土した。須恵器は杯身、杯蓋、提瓶、ハゾウ、高杯



第1図 調査位置図

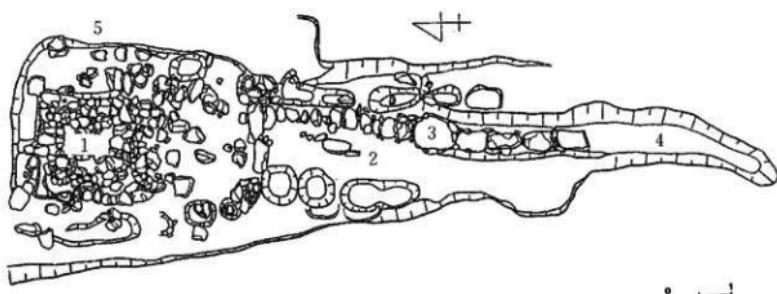
があり、装身具として、管玉、ガラス玉、水晶の切り子玉、金銀銅製の耳環、金銅製のうつろ玉が出土している。鉄器は馬具と釘で、馬具は鎖金具や食みの部分が残っていた。遺物の時期から6世紀後半から7世紀初頃のものとする。

弥生時代の遺構としては、堅穴住居跡や段状遺構がある。山の斜面であるため流失土が多く遺構の残りが悪い。中には10m程度の大型堅穴住居跡も見られ、本年度調査の古墳下層の堅穴住居跡では焼失家屋もみられた。堅穴住居跡からの出土遺物は土器片とサヌカイトの石鐵や石包丁をはじめサヌカイトの石核もあり、石材を金山から調達し、現地で加工していたようである。弥生時代の遺構は概ね後期の初めと末頃の遺物がある。今後、遺物整理の段階で複数ある堅穴住居跡や段状遺構、溝状の時期決定を行うこととする。

#### 9. まとめ

昨年同様、調査範囲全体が弥生時代後期と後期古墳のある遺跡であることが確認できた。今回の調査では調査地2の標高約40.5mの場所からも堅穴住居跡が見つかっており、広範囲にわたって住居跡があった可能性が高い。

また、後期古墳も斜面部であるが堅穴住居跡の平場を利用して築いており、まだ点在している可能性が高い。



横穴式石室の各名称

- |                         |        |
|-------------------------|--------|
| 1. 玄室<br>(被葬者を葬ったところ)   | 3. 排水路 |
| 2. 羨道(せんどう)<br>(玄室への通路) | 4. 墓道  |
|                         | 5. 墓こう |

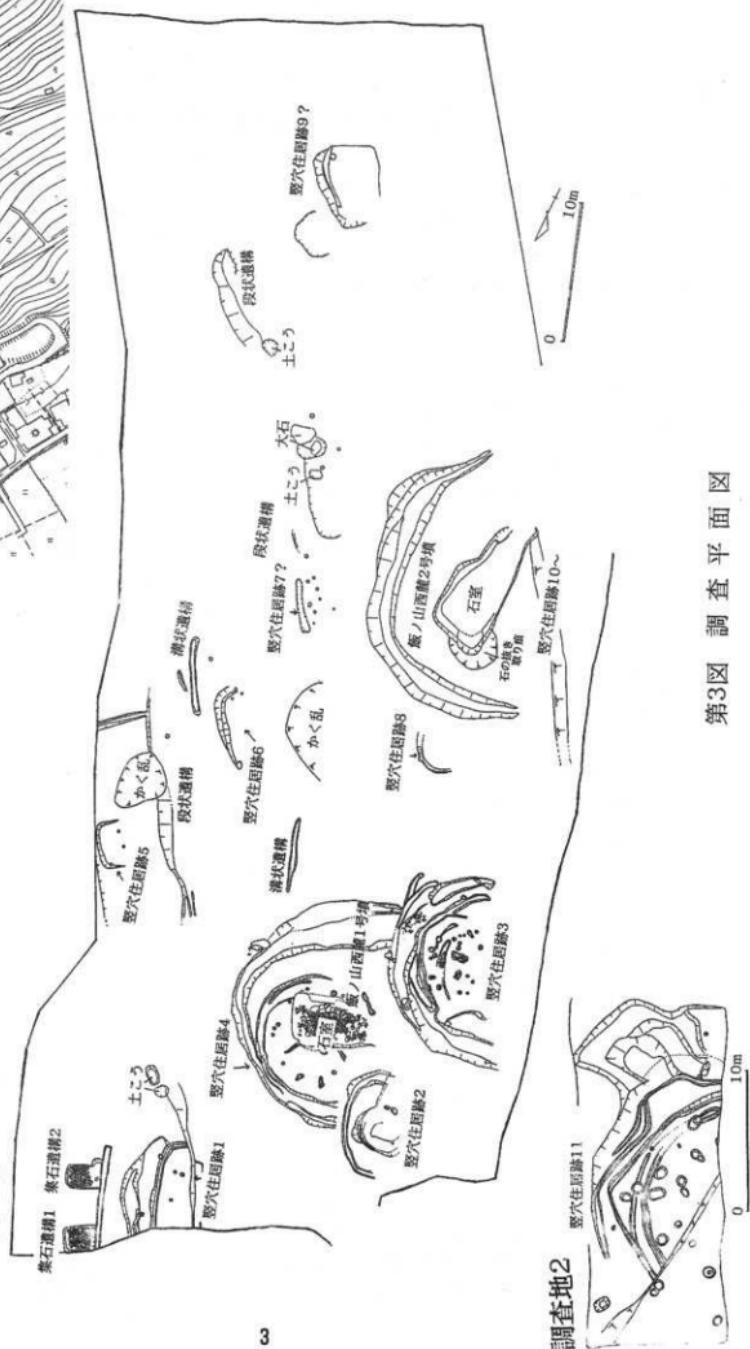
第2図 飯ノ山西麓2号墳平面図

飯ノ山西麓遺跡発掘調査

調査位置図

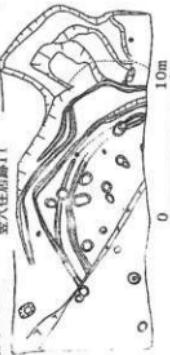


調査地1



3

調査地2



第3図 調査平面図

## B 郡家町重元(郡家重元遺跡)の調査

1. 調査目的 遺跡確認調査
2. 調査場所 丸亀市郡家町 1325 番地 1
3. 調査主体 丸亀市教育委員会文化課
4. 調査担当 文化課 東信男・北山多佳子
5. 調査期間 平成 15 年 3 月 13 日～20 日
6. 調査面積 約 5.4 m<sup>2</sup>
7. 調査方法 重機による表土掘削と人力による遺構確認調査。
8. 調査の概要

以前、水路工事で柱穴や溝跡が発見された場所に隣接する水田での調査である。

調査範囲は水路に近いところで南北 9m × 東西 6m の範囲で実施した。耕作土直下で建物跡や土こう、溝跡を確認した。

建物跡は掘立柱建物を 1 棟、杭列を確認した。掘立柱建物 SB01 は 2 × 2 間以上、柱穴は径 40cm 程度、柱間は、桁行き 1.5m、梁間約 2m で条里方向に向く。杭列は SB01 より古い。柱穴は径 10cm 程度である。その他に SP01 から須恵質の陶器 (1)、SP16 から土師質の杯(2)、7 世紀末から 8 世紀、SP22 は羽釜(3)が出土している。

溝跡は 3 条あり、SD02→SD03→SD01 の順となる。いずれも条里方向と一致していない。

SD02 の埋土は、底が灰色細砂層でその上から暗灰褐色細砂に灰黄色細砂の基盤層の土がブロック状に混ざり込む層があり、人工的に埋められた溝跡と判断する。幅は SD03 に掘り込まれ不明、深さ約 30cm ある。出土遺物は須恵器の甕(7)、長胴甕(8)、高杯(9)、に混ざり、輪の羽口(10)や鉄滓が出土した。時期は 7 世紀末～8 世紀初頭頃と推定する。

SD03 は幅 60cm、深さ 15cm 程度の溝跡で埋土は粒子の細かい灰白色細砂層単層である。出土遺物は蛸壺(11)、須恵器(12)、弥生土器の底部(13)がある。弥生土器片は混ざり込みであろう。

SD01 は、SD03 の直上にあるほぼ直角に屈曲する溝跡である。深さは約 6cm で、屈曲する内側に柱跡 SP08 がある。後世の水田耕作により遺構面は削平されている。出土遺物は輪(4)や羽釜(6)などがあり、13 世紀頃の遺構と推定する。

### 9.まとめ

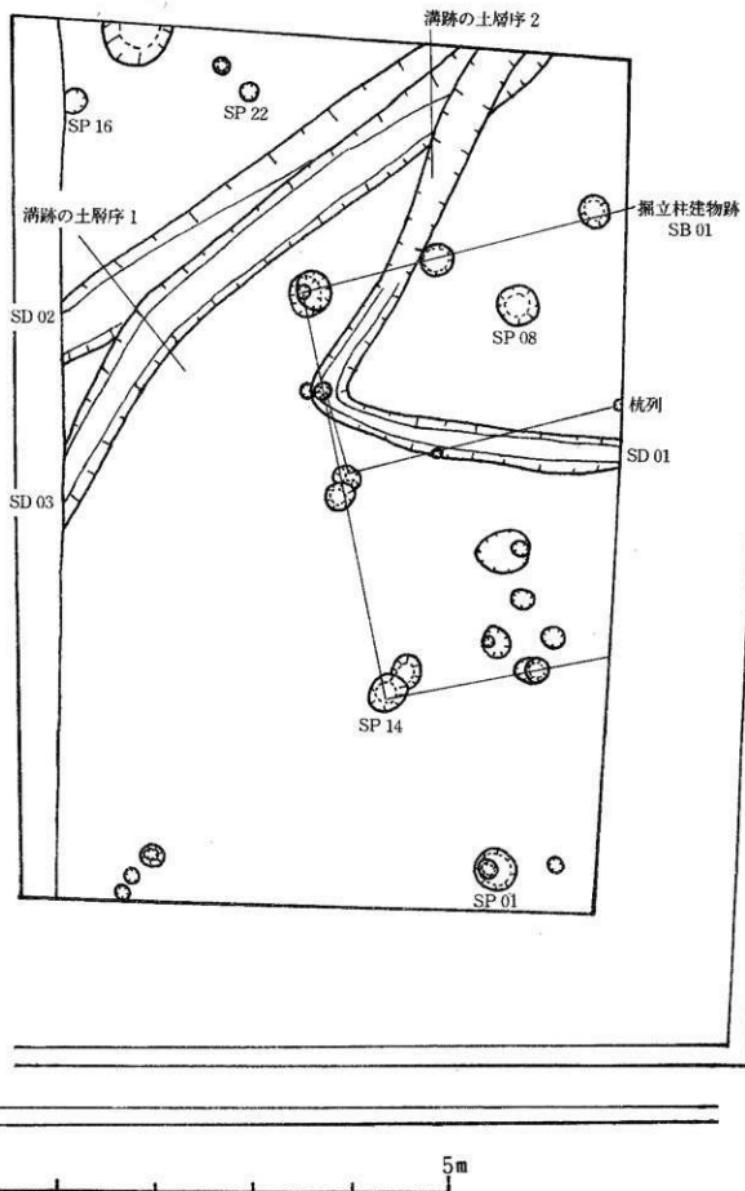
柱跡が多く見つかったが、調査区内では 1 棟しか確認できなかった。また、7 世紀末～8 世紀初頭の溝跡 SD02 に輪の羽口や鉄滓が廃棄されており、これに対応する建物跡も調査区内では確認できていない。周辺部に鍛冶をおこなった遺構があるかもしれない。

丸亀市郡家町はその名のとおり那珂郡の郡衙跡地であると推定されている。近世に築造された宝幢寺池には古代寺院の宝幢寺跡の塔心礎が残る。四国横断自動車道建設に伴う調査では、郡家原遺跡や郡家一里塙遺跡からは文字が書かれた土器が出土している。

調査地内でも古代から中世の遺物を中心であり、人の生活していた痕跡がみられる。郡衙跡地の特定は今後の課題である。



第 1 図 調査位置図



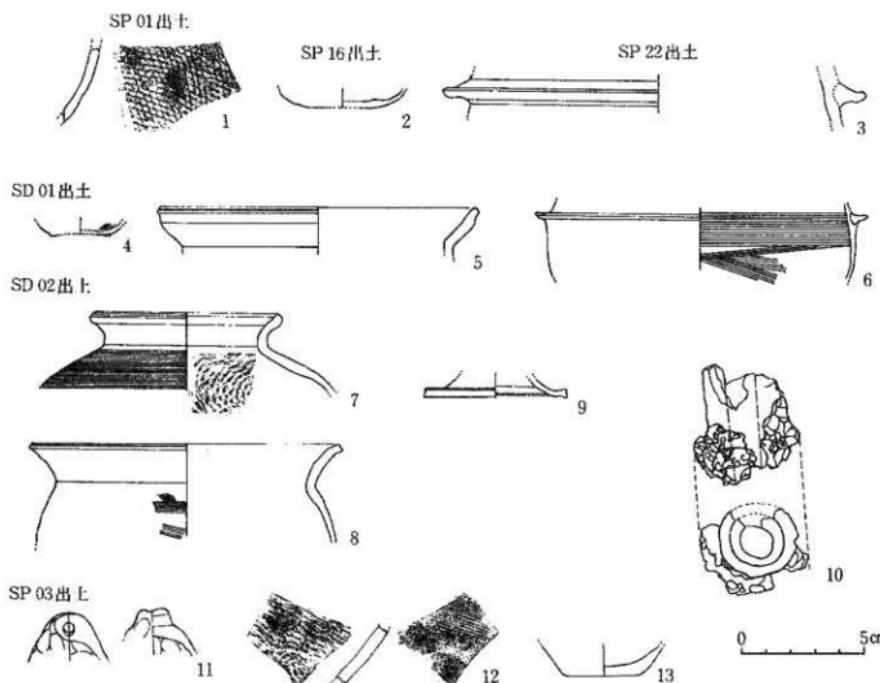
第2図 調査平面図

溝跡の土層序1

溝跡の土層序2



第3図 溝跡の土層序



第4図 遺物実測図

A 飯野町東二(飯ノ山西麓遺跡)



図版1 飯ノ山2号墳検出状況



図版2 飯ノ山2号墳検出状況



図版3 飯ノ山2号墳石室内検出状況

A 飯野町東二(飯ノ山西麓遺跡)



図版4 飯ノ山2号墳石室内遺物検出状況



図版5 飯ノ山2号墳石室内遺物検出状況



図版6 飯ノ山2号墳石室内遺物検出状況(馬具)

A 飯野町東二(飯ノ山西麓遺跡)



図版 7 飯ノ山 2 号墳石室内遺物検出状況(金環)

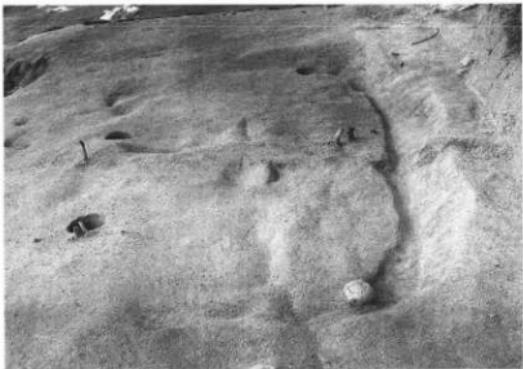


図版 8 飯ノ山 2 号墳暗渠排水出検出状況



図版 9 竪穴住居跡 3 検出状況

A 飯野町東二(飯ノ山西麓遺跡)



図版10 壺穴住居跡5検出状況



図版11 壺穴住居跡11検出状況



図版12 巨石周辺の段状遺構

## B 郡家町重元(郡家重元遺跡)



図版13 調査前状況

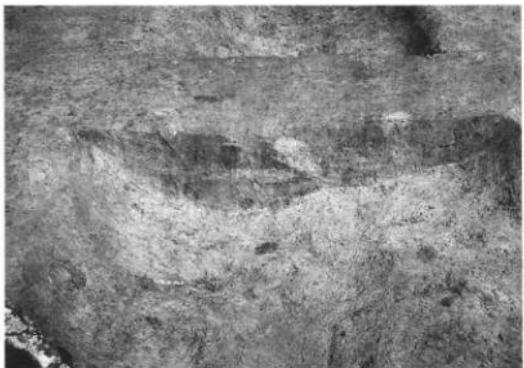


図版14 遺構検出作業



図版15 遺構検出状況

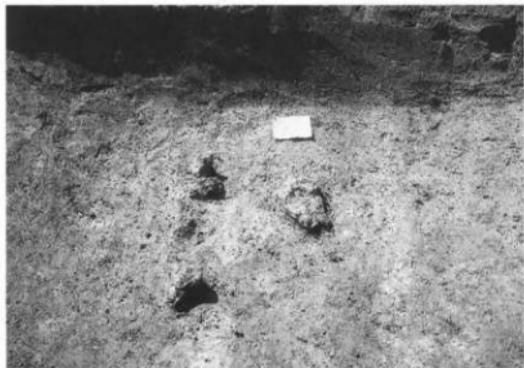
B 郡家町重元(郡家重元遺跡)



図版16 溝跡土層状況(溝跡の土層序1)

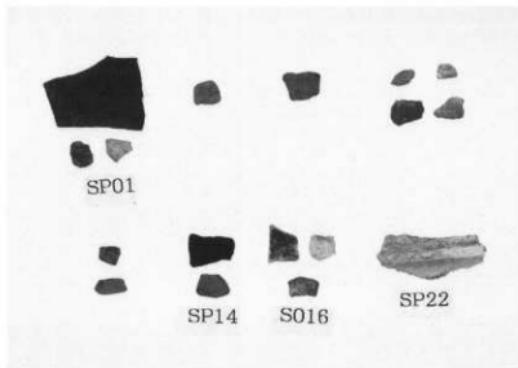


図版17 穢の羽口出土状況



図版18 鉄滓出土状況

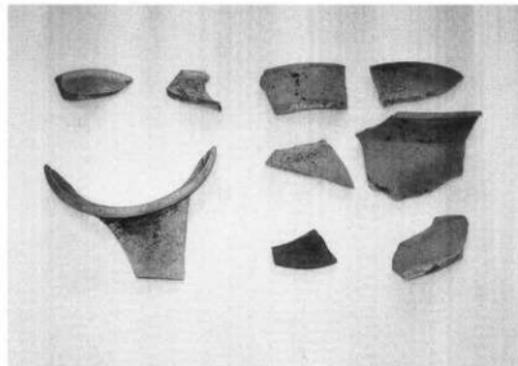
B 郡家町重元(郡家重元遺跡)



図版19 柱跡内出土遺物



図版20 SD01出土遺物



図版21 SD02出土遺物

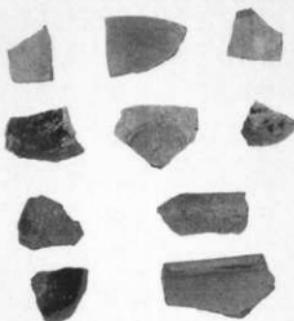
B 郡家町重元(郡家重元遺跡)



図版22 SD02轍・鉄滓



図版23 SD03出土遺物



図版24 包含層出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	へいせいじゅうよねんどまるがめしないいせきはつくつちょうさがいようほうこくしょ						
書名	平成14年度丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書						
副書名							
卷次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	東信男						
編集機関	丸亀市教育委員会						
所在地	〒763-8501 香川県丸亀市大手町二丁目3番1号						
発行年月日	西暦2003年3月31日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
いいのやませいろくいせき 飯ノ山西麓遺跡	かがわけん 香川県 まるがめし 丸亀市 いいのちょう 飯野町	37202	34° 15' 3"	133° 50' 28"	2002.6.3 ～ 2003.3.27	3,000	遺跡確認 調査 造成工事
ぐんげしげもといせき 郡家重元遺跡	かがわけん 香川県 まるがめし 丸亀市 ぐんげちょう 郡家町	37202	34° 15'	133° 49' 21"	2003.3.13 ～ 2003.3.20	54	遺跡確認 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
飯ノ山西麓遺跡	集落跡 古墳	弥生時代後期 古墳時代後期	竪穴住居跡 後期古墳	弥生土器片・石器 須恵器・玉類・馬具等			
郡家重元遺跡	建物跡 溝跡	古代～中世	掘建柱建物・杭跡・ 溝跡	土器片・繩文の羽口、鉄滓等			

平成14年度  
丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書

平成15年 3月発行

編集 香川県丸亀市大手町二丁目三番一号  
発行 丸亀市教育委員会

印刷 株 四 国 工 業 写 真